

広島市の細菌性三類感染症の検査結果(2014年)

生物科学部

はじめに

広島市内で発生した細菌性赤痢、コレラ、チフス及び腸管出血性大腸菌感染症など細菌性の三類感染症に対しては、医療機関、保健所、各区保健センターの連携のもと、当所において患者や接触者の感染確認のための細菌検査や分離菌株の遺伝子検査等の疫学解析を実施し、感染拡大の予防に資するよう努めている。

2014年の細菌性三類感染症の発生状況及び検査結果を報告する。

方法

1 感染症発生状況

2014年に市内の医療機関から保健センターへ届出された患者の情報及び分離され当所に搬入された菌株並びに当所で患者家族や接触者などの検便から分離した菌株の検査結果をもとに集計した。

2 血清型別及び毒素型別検査

届出時に医療機関から行政機関に提供された菌株及び当所で関連検体から分離した菌株について、常法による生化学的性状試験、血清型別及びPCR法等の遺伝子検査やイムノクロマト法などの免疫学的検査による毒素型別を実施した。

3 薬剤感受性試験

12種類の抗生物質(ABPC, SM, KM, GM, TC, NA, CP, CPF, CTX, ST, TMP, FOM)について、Sensi-Disc(BD)を用いた一濃度ディスク法により

実施した。

4 MLVA解析

厚生労働省通知に基づき、腸管出血性大腸菌の菌株を国立感染症研究所細菌第一部に送付し、MLVA法による解析に供した。結果はMLVA typeとして還元された。

結 果

1 細菌性赤痢・コレラ・チフス感染症

2014年は細菌性赤痢、コレラ、チフスの届出はなかった。

2 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況を表に示す。患者の届出が9件あったが、1件は菌株を入手できなかった。

患者からの分離菌株8株の内訳は、0157が5株、026が3株であった。0157は、0157:H7が4株、157:HNMが1株であり、うち2株がVT2単独産生、3株がVT1・VT2の両毒素産生であった。026はすべて026:H11で、VT1単独産生であった。

謝 辞

調査にご協力いただいた医療機関及び各区保健センターの各位に深謝いたします。

表 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

No.	届出日	発生区	年齢	性別	血清型	毒素型	MLVA type	薬剤耐性
1	20140623	南	82	女	026:H11	VT1	14m2041	ABPC
2	20140701	安佐北	2	女	026:H11	VT1	13m2192	ABPC
3	20140805	安佐南	69	男	0157:H7	VT1, VT2	13m0192	ABPC, TMP
4	20140825	安佐南	26	女	0157:H7	VT2	14m0298	TC, ABPC
5	20140905	西	2	男	026:H11	VT1	14m2084	ABPC
6	20141021	安佐北	2	男	0157:HNM	VT1, VT2	14m0426	ABPC
7	20141030	西	12	男	0157:H7	VT1, VT2	14m0434	ABPC
8	20141104	西	13	男	0157:H7	VT2	14m0421	ABPC